

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.8

白 HAKUA 亜

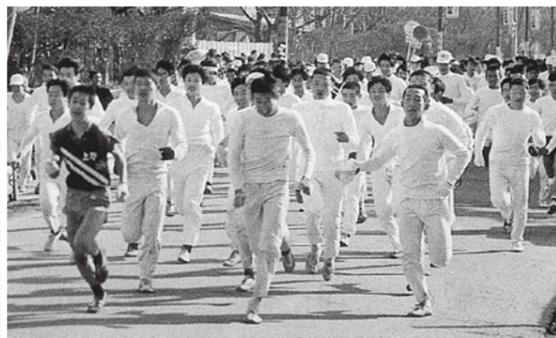
事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
<http://www.ict.ne.jp/~hakua/>
E-mail：hakua@ict.ne.jp

フォトメモリー

あの日、あの時
Part3 月ヶ瀬マラソン



昭和7年 スタート付近



創立100周年記念大会 OBも参加(平成11年)



創立90周年 復活月ヶ瀬マラソン スタート(平成元年)

月ヶ瀬マラソンは、今から96年前の大正2年(1913)3月1日、月ヶ瀬への全校遠足の帰路に有志生徒が競走したことが始まりである。新制高校(共学)となつて3年間は全校で月ヶ瀬まで走ったが、その後女子は遠足となった。

昭和46年(1971)以降、交通事情から、県境を越えない「校内マラソン」となり、再び女子も参加した。平成元年(1989)創立90周年事業として再び月ヶ瀬までの12キロのマラソンが復活した。現在は、女子は白檜の岡八幡宮までのコースに。

同窓会の会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は上野高等学校の教育推進のためにご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。私ごと、この四月より、加藤文悟前校長の後任として、本校に勤務させていただきますことになりました。もとより微力ではありませんが、伝統ある上野高等学校のさらなる発展に全力を尽くす所存でございます。よろしくお願いたします。



学校長 渡辺 祐治

会に出場し、この七月に本県で開かれた全国高校総合文化祭には、新聞、書道、写真、美術、かるたの各部門に出場し活躍しました。一方、大学進学においては、国公立大学をはじめとして難関の私立大学に多くの合格者を出すことができました。しかし、最近の進学実績を県内の他の進学校と比較したとき、十分な成果を挙げているとはいえない状況があります。そのため、進学体制の一層の充実を図るため、この四月より新たに「理科」を一学級設置しました。今後は、教職員が一丸となって理教科を核とした進学指導の充実に取り組みとともに伊賀地域の伝統的な進学校としての評価を高めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます、ご挨拶いたします。

ごあいさつ

上野高等学校同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会事業の運営に對しまして格別のご理解、ご協力を賜り誠に有難く存じております。同窓会報「白亜」の発刊に際しまして、書面ではございますが、厚くお礼申し上げます。本同窓会も、既に四万名(物故会員を含む)を越す会員を擁する大きな組織となり、大変喜ばしく存じます。そして、それぞれの会員様が母校の伝統と校訓であります「自強不息」の精神を受け継ぎ、地元の方々をはじめ、全国各地でご活躍されておられます方々には、上野高校同窓会の存在価値の高揚に努めたいと思ひます。そのうえに、年会費のご納入にも積極的にご賛同いただいております。お蔭様で同窓会運営が円滑に展開できておりますことに感謝申し上げます。次第でございます。



同窓会長 左橋 佳三

一方、国際化、情報化等の急速な進展、或いは深刻な環境問題、少子高齢化問題等、様々な難題が山積し、それらに向き合っていかなければならない現在、また、今後におきましても、百年に一度といわれる世界的な不況が好転するの、或いは一層悪化するの、どのように変化していくのか計り知ることができませんが、こうした時にこそ、当会報の発刊を機会に会員相互の横の連携を密にするとともに、情報の交換を図り、親睦、結束を固め、連帯を深めていただきますれば、同窓会そのものの意義が一層高められるものと考えます。あとになりましたが、「白亜」の発刊に際しまして、ご寄稿、ご協力賜りました会員の方々、ならびにご尽力いただきました会報委員会の皆様方に厚くお礼申し上げます。なお、会員の皆様方には、今後とも同窓会運営に對しまして、一層のご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生インタビュー

天気画面に伊賀も CBCテレビで活躍

気象予報士
岩名美樹さん(高46回)

岩名美樹さんは、CBCテレビの情報番組「イッポウ」(16時50分〜19時55分)で気象予報士として活躍されている。イッポウでは「岩名美樹のコレに決めテン!」というユニークなコーナーで、視聴者の知りたい場所の天気情報をピンポイントで教えてくれる。

表情を見ずにコンピューターに頼って何度か痛い目にあいました。特に力を入れているのは「イッポウ」のポイント天気です。実は、要請してイッポウのポイント天気画面に「伊賀」を加えてもらいました。伊賀地方の方は、津の予報より滋賀や奈良を参考にするのはないでしょうか。でも、滋賀や奈良とも少し異なるので、慎重に予想しています。

気象予報士を目指したきっかけは?

小、中学校のときは高気圧も低気圧も理解できませんでした。ただ、初対面の人との会話に天気の話は重宝しますし、元々、空の雄大さや表情は好きだったので、苦手意識克服のために勉強を始めました。勉強すればするほど奥が深くて、興味が尽きなかったのも励みになった一因だと思います。

仕事上で一番大切にしていることは?

テレビでは「難しいことは簡単に、簡単なことは面白く」。天気予報は年齢を問わず気になる情報とされているので専門用語はもちろん、熟語も出来るだけ使わないよう心がけています。予測するときは「実況の把握」。空の



プロフィール

いわな・みき さん

1977年1月1日 伊賀市出身 高46回
日本気象協会所属 気象予報士
働きながら勉強をし、2003年に気象予報士となる。
2006年からCBCの「イッポウ」の気象キャスターを担当している。
血液型はA型、趣味は温泉めぐり、お花見・紅葉狩り、スノーボード
仕事柄、雪が降るゲレンデを狙って出かけ、岐阜県内の温泉はほぼ制覇したとのこと。

夕立の季節ですが、雨が降るときは、黒い雲が近づいてくるのはもちろん、冷たくてやや強い風が吹くときも要注意です。風が吹き始めると数分後に雨が降ることが多いんですね。これは、私が気象予報士の勉強を始めたのは二十四歳のときでした。仕事と勉強の両立に苦労しましたが、今でも思うことは「生きる＝学ぶこと」ということです。学ぶことを諦めたら老いるだろうな、って。(笑) 今考えると無鉄砲なところも随分あったと思いますけどね。
人生のスタートラインはどこにでも引き直せます。もし、将来の進路などで悩むことがあっても、失敗したと思えば、そのときにやり直せばいいのです。自分の中に秘めた色んな可能性を試してください。やり直す勇氣とエネルギーだけは失わないでほしいと思います。(松本ひとみ 高52回)

高校時代の思い出は?

部活に力を入れていました。部活の吹奏楽部の顧問だった岡村信也先生は厳しく暖かい先生で、随分お世話になりました。最も印象に残っているのは、制服のスカートの短いことで、全校生徒が集まる中で制裁をうけたことですね。(笑) 当時、三重県の選抜バンドに選ばれたばかりだったので、「代表らしい行動をしろ。」と。おっしゃる通りです。
在校当時は、若干保守的な学校かな、と感じていました。今は先輩に素晴らしい方がたくさんいらっしゃるのので、愛知県で生活していても「上高卒」というプレミアがつくのは先輩方の功績が大きいからだと思って感じています。私たちの世代も、先輩たちにそう思ってもらえる努力が必要だと思っています。

後輩にメッセージを。

私が気象予報士の勉強を始めたのは二十四歳のときでした。仕事と勉強の両立に苦労しましたが、今でも思うことは「生きる＝学ぶこと」ということです。学ぶことを諦めたら老いるだろうな、って。(笑) 今考えると無鉄砲なところも随分あったと思いますけどね。
人生のスタートラインはどこにでも引き直せます。もし、将来の進路などで悩むことがあっても、失敗したと思えば、そのときにやり直せばいいのです。自分の中に秘めた色んな可能性を試してください。やり直す勇氣とエネルギーだけは失わないでほしいと思います。(松本ひとみ 高52回)

中国で独自ブランドも

インナーデザイナー 芦田美和さん(高13回)

二〇〇六年に「プロデザイナーのための女性下着概要 知識と技術」を出版した芦田美和さんは、いま、プロデザイナーの育成と独自ブランドの製品「亜希by芦田美和」を中国でも販売しようという計画が進んでいる。

子供の頃からデザイナーにあこがれ、中学時代には下着デザイナーになると決めていたという芦田さん。その志通り、上野高校から女子美術短大に進学した。ワコールに入ることを望んでいた。そのためにも一度藤川学園で学んで入社を果たした。

一九六〇年代、下着の専門学校や大学はなく、ワコールで学んだ十年間は「とても財産になった」とのこと。人の身体によりフィットした下着、より機能的に、また美しく見せる下着を作るため、数多くのフィッティングモニタリーに接し、パターン修正を繰り返しながら作り上げ、動きによるズレや圧力を感じないかと自分でも着用して確かめパターンを修正してきた。

現在も、下着専門の学校はなく、企業に入ってから自らが手探りの状況で学び、一人前になるのに大変な時間がかかる。二〇〇一年に、芦田さんは「インナーパターン教室」を開設した。今



まで自身が培ってきたノウハウを若いデザイナーに伝えようと思ったからである。冒頭の出版はそのための教科書ということだ。単なるデザインの知識ではなく、生理的な観点からの体型の変化を解説した章もあり、従来にはなかった画期的な一冊だ。
三年前には韓国で「亜希by芦田美和」を立ち上げ、テレビショッピングで販売しているが、No.1の売り上げを保っているという。今年になって、中国からも教室の誘いがあり、中国語での出版も計画されているとのこと。さらに近年には高級日本製品「芦田美和」ブランドが中国の店頭を飾る見込みという。
女性として自立し、下着デザイナーの道を開拓してこられた芦田さん。その活躍の場はさらに広がっている。(安屋宣子 高19回)

還暦後から迫力ある仏像画を

林 昌光さん(高8回)

「五十歳までしっかり働いて、それから絵を描いて暮らす」。上野高校を卒業するとき、クラスでそう宣言した林昌光さん(高8回・奈良県在住)の仏像画展が、五月に郷里の上野のお城会館で開かれた。

興福寺の弥勒仏坐像などの穏やかな像の他に金剛力士像、十二神将立像など激しい表情で動きのある姿勢の仏像が中心になっている。写実的で飛び出しそうな立体感で迫力のある画風だ。

林さんは、住まいが法隆寺に近いという利点を活かして六十歳頃から寺院を訪ね歩いて仏像を油絵に描き始めた。

ただ、現地ではスケッチも写真も許可されないで目に焼き付けて帰り、資料の写真で補ってキャンバスに向かうという苦労があるとのこと。

はじめの頃は広隆寺や興福寺の穏和な弥勒菩薩を対象にしたが、やがて迫力のあるものにひかれて金剛力士像、

四天王、興福寺の阿修羅などを次々に描いた。最近では、十二神将立像、蔵王権現立像などを写実的な仏像とその背景にイメージを構成した構図に変えていきつつある。

この腕前は、上高時代に美術部で和油絵の基本を学んだこととその後仕事によって磨かれた。高校生の林さんは、当時、上野市内在住だった画家の松浦莫章氏(中26回)の所へ作品を持って行き指導を受けたという。そして、絵を描く仕事をしたために大阪の広告会社に入り、看板の制作にあたった。

ここでは油絵とは違ったデザインの分野で三人の先生にいた。三十五歳で独立して看板広告などの制作にあたり、外車を実物大の写真のように描いたこともある。

こうした長年の経験を経て、高卒時の宣言から十年遅れたが、還暦ころから趣味の世界で仏像を描く生活に入った。



最近の作品と林さん(上野お城会館で)

おたより おたよりせ

第18回上中会総会開催

平成21年6月7日、ヒルホテルサンピア伊賀において、伊賀市長内保博仁氏を始め上高同窓会長左橋佳三氏、上高校長渡辺祐治先生、上高教頭松岡泰之先生のご出席を頂き58名の会員出席のもと盛大に総会を開催することが出来ました。総会議事終了後玄関前で全員の記念写真撮影、つづいて元名張中学校長、元三重石仏会訪中団代表をされた39回卒の井岡惇一氏の「中国の石仏を巡歴して」の記念講演、国内33回、韓国・中国・東南アジアへの10数回の巡歴の石仏・石窟・石像遺跡を数多くの水墨画作品とし今まで多く入賞、入



選され、それらについてのお話、井岡さんの素晴らしいライフワークに感銘を受けました。

名の方々の堂々たる詩吟に酔わされ、聞き入り、上野中学の名物教師漢文の筒井先生（通称ピンちゃん）の名朗誦を回想した楽しいひとときでした。つづいての懇親会では旧交をあたため、最後に校歌を合唱して、来年の総会に再会を誓い合いました。

上中会は平成4年に結成され、会員数は約4百名で76歳以上の高齢のため、体調が悪い会員が非常に多いにもかかわらず、年会費を納めてくれる会員が3百余名と多く助かっております。

上中会は事務局はなく、各業務や資料作りは役員全員が分担しており、総会の案内、受付、懇親会費の集金等の事務は学年幹事をお願いしてやっています。すなわち「手づくりの総会」になっております。

上高卒業の後輩の諸君は本業でよい成果を発揮すると共に、同窓会活動にも更に活躍して頂きたいと思っております。

（上中会会長 福井紀生 中42回）

上高25年卒汽車通会



今年の「上高25年卒汽車通会」は、3月29日、大阪キャッスルホテルの錦城閣で開催した。出席者は37名（男性14名、女性23名）。

三重県在住者は勿論、京都、大阪、奈良、兵庫、神奈川から集まり再会を喜び、楽しく一時を過ごした。宴会の後、大阪の水バス、アクアライナーで観光も行った。

我々の汽車通会は、旧制上中、阿山高女、新制上高を通じ、関西線、伊賀線で汽車通学をした当時の仲間が集

い、昭和50年代に始めたものである。当時の関西線は、D51、D50の機関車が牽引し、伊賀盆地を走る列車は誠に力強いものであった。然し、終戦後（中学、高女2年の時）は、扉を閉めると真暗になる貨物車に乗ったり、闇米の買出しで満員の列車に窓から出入りしたり、という大変な時代であった。それだけに、共に汽車通学をした者の繋がりは何ものにも変えがたいものがある。

50年代に始まったこの会は、鳥ヶ原、上野、名張、旧伊賀町、旧阿山町、大阪等の在住者が、順次世話人となり続けて来た。平成3年全員還暦の年には、伊勢へ一泊で行き、伊勢神宮で折祷を受けたのもなつかしい思い出の一つである。

今回も全員が満年齢を越え元気に集ったが、今日迄の物故者の霊に祈り、病氣療養中の会員の平癒を念じながら、何時迄も続けられればと願っている。

（大阪・山路章記）

上中昭和21年入学生同期会

「美酒に酔う」

昨年の東京に次いで今年度第9回は地元上野（於三田清）で5月13日開催。昨年からは後期高齢者の仲間入り、出席者数も減少傾向になった。それでも39名が参集。東は東京、鎌倉から、西は熊本から飛行機で。卒業以来の再会者も何人かあり、限られた時間を惜しむ



当てクイズ、カラオケ、ビンゴゲーム、少女額絵の福引などで楽しいひとときを過ごすことができました。

資料の名簿には、表紙になつかしい中原淳一の絵でかざり、欠席者の近況報告のコピー、恩師の写真等も載せ、皆なつかしい思い出、なかなかの好評でした。

御主人を亡くされた方、また独り暮らしの人も増え、老いを感ずる人も多くなり、アンケートの結果、今回が最後の同窓会となりました。

今後は、地域ごとに小規模な交換会を開くことを話し合い、楽しい会を開きにしました。

（西口）

高3回 潮騒の孤島「神島」散策



恒例の第3回生同窓会を今年は一〇月上旬、イクシブ鳥羽アネックスホテルで盛大に開催した（参加者男22、女24計46名）。2日目は潮騒の孤島「神島」の散策。心配していた台風もななく快晴に恵まれ、多少の船揺れにもめげず、老骨に鞭打って殆どが島一周することが出来た。鳥羽市の紹介で派遣されたボランティアの島内案内者が我々と同年の75歳だったことにも勇気付けられた。鳥は度々鷹の渡りの時期で、芭蕉も詠んだように、鷹が伊良湖水道の空高く舞っていたし、来る冬を避けて、遠くは沖繩や中国大陸までも旅立つという「アサキマダラ（蝶）」が、灯台付近でアザミにとまっているのを見つけて心が癒された。旅の思い出に寄せていただいた俳句3首を挙げておく。

（幹事一同）

阿山高女学校校歌碑建立の記

平成20年9月19日、上野高等学校同窓の庭に、同窓会会長左橋佳三氏、学

したたかな女子教育を受けたのであった。時は、大正デモクラシーの世から昭和の軍国主義へと移り、太平洋戦争が始まるや、憧れの白線二本のスカートはモンペに、英語授業廃止、雑刀から軍需工場へ駆り出されたのであった。大戦漸く終結。昭和23年5月、男子校の上野中学校と合併、「三重県立上野高等学校」となり、同窓会も「上野高等学校同窓会」は「部会」となったのである。

その日は台風十三号の襲来と重なり、直撃こそ免れたものの傘をさしての式典であったが、予定通り、開式の辞から始まって、式辞、来賓祝辞、除幕、感謝状贈呈と進行、「たあかはたやまの、まあつのいろ……。」と大きく声を出して、阿山高女の校歌を斉唱し除幕式を閉じたのであった。

明治42年4月、ここ上野の地に「阿山郡立実業補習学校」が創立し、大正十一年四月、郡立が県立に昇格、その名も「三重県立阿山高女学校」と改名改称、姫小松の緑に映える白亜の当時としてはモダンな二階建て校舎が建てられたのであった。

通学の女生徒達は、周囲から羨望の眼で眺められた由、それでも彼女達は驕らず謙虚にしとやかに、それでいて

この歴史と伝統ある母校「阿山高女」に寄せる熱き想いを、俳句



津子さま（ともに昭和17年卒）に語られ、共感共鳴されたお二人が、「阿山

不安と焦燥の念に駆られたのであった。それだけに、ケーブルTVや地元新聞記者のカメラのフラッシュを面映ゆく感じながらも安堵の胸を撫で下ろしたのであった。

今後、この同窓の庭に訪れるければ部会員は校歌碑を見て、往時を偲びつつ校歌を口ずさまれるであろうし、「女学校って何？」と不審がる若い人達も「誠の道を辿らまし」や「己が心をたださまし」の歌詞に自分を見直す機会とされるであろう、小丸富揮毫の校歌碑も後世長く語り継がれるであろうと思う。

ここに、校歌碑建立に当って御苦勞

第37回阿山高女同窓会

去る4月26日（日）に、阿山高女第37回卒業生の同窓会（一・二・三会）を上野フレックスホテルにて開催しました。

昭和十八年阿山高女の入学生で、勤労奉仕、疎開の同級生が都会からたくさん転校してきた学年、学徒動員で工場へ通った日々、終戦、四年制から五年制に変わった学制、男女共学等々、すべてを体験した私達の仲間も早や傘寿を迎えようとしています。

同窓会への欠席通知には、殆んどが腰痛、ひざ痛ばかり、それでも四十一名の出席者が元気に顔を会わせ、漢字

ながら欲談は尽きることなく盛会の裡に終了。この会のもう一つの魅力は酒造家2人が取って置き的美酒を持参してくれていることにある。

今回も地元の高級酒に舌鼓を打ちながら、ほろ酔い気分になった。次回は滋賀県での開催を約束し、散会となった。

（幹事一同）

「神島」
秋の蝶 神の山気を 曳いて来し
鳥薊 振り向けば海 前も海
鷹渡る 海神へ磴 屹立し
森中香代子

「上五会」初めて奈良へ

隔年に開くことになっている「上五会（第五回卒）」の同年会を、今年...

春日、耳成、二上など大和ゆかりの地名が名付けられたテーブルにわかれ...

心に残るお話、耳を傾け、先生方から元気の秘訣を教えていた...

第8回普通科同期会報告

私たち第8回普通科卒業生はここ20年以上、2年に一度同期会を開いて...

最近では、平成7年名古屋、9年大阪、11年上野、13年熱海、15年奈良、17年名古屋、19年鳥羽といった経過で...

今回は6月4日に上野フレックスホテルで10年ぶりに地元で開かれ旧交を温めました。

新型インフルエンザ騒ぎで、会員はもちろん幹事はやきもきしましたが緊急幹事会の結果、予定通り決行とし当日を迎えました。

105名の会員の参加を得て、午前11時から記念写真撮影、12時少し前に会が始まり、恩師の古山博典、杉浦茂夫両先生のおこぼを頂戴しました。

ならべた仲、すぐにへだてなく語り合うことができた。今まで生きてきた人生、現在の落ち着いたくらしなど、話題は尽きることがない。

ホテルの好意により、4時半まで宴会がつづき、最後は大谷欣子さんの歌唱指導により「別れの歌」を合唱し、次期大阪幹事の決意表明があつて散会した。

「上五会」はいつのころからか翌日もう一日いくつかのグループに別れ名残を惜しむ会が催される。今回も多少少なめではあつたが、行事が組まれた。まずゴルフ11名、ちようど国立博物館で開催中の「法隆寺展」を見学して...

(上野幹事)



女性、高崎さんの発声で乾杯、懇親会の始まりです。多くは2年ぶり、中には卒業以来初めての参加の会員もいて、昔話に花が咲いて時の経つのを忘れてしまうほど楽しいひとときでした。今回は2年後大阪方面で開かれる予定です。

(幹事代表 森口猷弘)

2009年4月7日上九会の報告

2009年4月3日(土) 4日(日) 京都・嵐山で開催。3日の宴会には先生方3名を加え61名出席し、宿泊は男子30名(内先生3名)女子26名の計56名と盛会でした。



折りしも新緑と7、8分咲きの桜の色合いの美しさを求めての花見客も多く、人の賑わいにも心浮き立つ華やかさが有りました。夕暮れの6時からスタートした懇親会の2時間は岩本(体育)・福井(数学)・小山(音楽)・3先生方の思い出と近況のお話、永らく上野・伊賀市の市長を務めた今岡君の挨拶、それから出席者の自己紹介などで瞬く間に進み、最後に小山先生の指揮で校歌を大合唱して終了。その後夜桜見物に出た連中も戻って、カラオケ・歓談と思ひ思ひの楽しみで就寝の11時頃迄賑やかでした。

東京支部

11月16日(日)第13回東京支部総会が八重洲富士屋ホテルで開催されました。新支部長に、今西元郎さん(高7回)が就任されました。

講演会では、福井健二さん(高6回)が「藤堂高虎入府400年と伊賀上野城」と題して話されました。

新卒業生会員の歓迎会に参加して

この度、上野高校に赴任して初めて送り出した卒業生の歓迎懇親会に参加させて頂きました。

新卒業生会員は合計2名でした。今春の卒業生とは約3ヶ月ぶりの再会になります。たった3ヶ月ですが、都会の風に当たったためか、どことなく大人びて見え、成長を感じました。

京阪神支部

平成21年5月31日大阪の天満橋にある大阪キャッスルホテルで行われた「平成21年度京阪神支部定期総会」へ左橋佳三同窓会会長、渡辺祐治学校長と事務局から渡辺宏泰が出席しました。

百本惇滉支部長挨拶、左橋会長祝辞のあと、渡辺学校長祝辞の中で、本校の今年度の大きな変化として「理科科」1学級の設置、そして進学状況、クラブの活動状況が報告されました。

議事のあと、内保博仁(高13回)伊賀市



支部長 今西 元郎 (高7回) 組織の区域 関東地区(東京、神奈川、山梨、埼玉、栃木、群馬、茨城、千葉) 会員数 約1,800人 総会・懇親会 隔年1回(11月) 会費 年額 1,000円 会報 伊賀の友誼発行年1回(10月初旬)

の東京暮らしも一段落して落ち着いたとのことで、送り出した側として少し安心することができました。

銀座の中心、三笠会館という由緒ある会場の美味しい料理に舌鼓を打ちながら、参加者の方々は再会を懐かしんでおられました。卒業生が先輩方に囲まれて温かい心こもった激励を受けている姿を見て、「見知らぬ土地での新生活、これから不安になることがあるかもしれないけれど...これだけたくさんの先輩方に支えられているから...大丈夫だな」と感じました。

窓会で母校の校歌を歌うのはとても感慨深いものだと、かねてより聞かされておりました。会の最後に参加者全員で校歌を斉唱する場に居合わせていただいて、確かに「上高」という繋がりは時も場所も超えていくものなのだ、感銘を覚えました。



(上野高校教諭 鈴木良典)

名古屋支部

11月26日若手の幹事が中心になり忘年会が実施されました。平成16・17年度の卒業生で中部圏在住の220名にも案内して、新しい会員からも参加がありました。

支部長 百本惇滉 (高7回) 会員 京阪神及び奈良地区に在住(職する入会希望者) 会員数 約1,000人 総会・懇親会 年1回(原則5月) 会費 年額 1,000円

賀市の近い将来の姿がイラストで描かれ、市長のこれからの伊賀市の在り方についての考えが語られました。旧上野市で生まれ育った私にとって、ふると伊賀市のこれからの発展に熱い思いで市長の話を聞かせていただきました。

(渡辺宏泰 高33回)

支部長 浅菜宝明 (高17回) 会員 愛知・岐阜・はじめ中京圏に住する入会希望者 総会・懇親会 隔年1回(6月)

次の名古屋支部総会は、22年6月に開催の予定です。支部活動の一層の充実を図る為、「支部便り」の準備が進められています。支部総会には多数の参加をお願い致します。

三重大学伊賀研究拠点 ゆめテクノ伊賀 スタート

平成二十一年春、伊賀市ゆめが丘に産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」が竣工した。鳥がはばたくイメージのおしゃれな建物の中には三重大学の生物資源学研究所を中心とした「三重大学伊賀研究拠点」と民間の起業を目指す五件のインキュベーター（孵卵機能による将来事業者・県内3社、県外2社）が同居している。国立大学法人として地域に進出するという全国でも事例のない地域連携の新モデル事業として全国から注目を集めている。

この「三重大学伊賀拠点」の開業にあたっては幾多の困難があったが、豊田前学長や、生物資源学研究所の



前田 広人 教授
ゆめテクノセンター長

ゆめぼりす伊賀立地企業連絡会の上野ガス(株)役員の中井茂平氏(現伊賀研究拠点客員教授・高22回卒)の尽力は並々ならぬものであった。

平成十七年、伊賀への進出を検討した三重大学側から、プレゼンテーションが行われ、平成十八年には、誘致推進の為、伊賀市が「三重大学



全景

伊賀拠点設置推進委員会」を民間委員を交えて設立し、条件や場所の選定を行ない、伊賀市議会全員懇談会を経て、平成十九年四月二十五日、伊賀市と三重大学は、研究機能の中



研究室

心とした「伊賀研究拠点」設置の合意協定書を締結した。

いよいよ建設着工の運びとなり、三重大学内には、開設準備委員会(前田 広人 座長)、伊賀市文化都市協会内(共同研究施設運営委員会(前田 広人 座長)、中居準備室長(高17回卒)、さらに伊賀市、名張市、両市商工会議所、民間が中心となり産学官連携伊賀研究拠点ワーキンググル



中井 茂平 氏
座長

それぞれ関係者一同、開設までの一年間をそれぞれの役割分担に邁進し、ようやく伊賀にアカデミックな研究機関がスタートしたのである。

三重大学伊賀研究拠点の開業は、環境と食と文化」をテーマにして、「地元伊賀地域並びに関西、中部の企業との共同研究を中心とした産学官連携の研究開発プロジェクトを行なう機能。起業家を支援するインキ

ユベーション機能。施設内のテクノホールや講習室を利用したセミナー、研修会等や高校との連携講座を開催しての「人材育成機能」を目的としている。例えば、上野高校とも昨年、伊賀拠点準備室の段階で、前田教授による出前授業や文部科学省予算により生徒へのDNA実験指導を行なっている。さらに本年は、2回のDNA実験指導に加え、三重大学の志摩にある水産試験場への見学会も企画している。



田中 愛一郎 氏
高24回卒

インキュベーターとして入居した田中青果加工(株)の社長田中愛一郎氏は「バナナには白血球を活性化させる作用があるといわれているが、バナナのインフルエンザやガンの予防効果の実験・研究を進めたい。」と語る。

この伊賀研究拠点には、前田教授と専任の山本准教授、研究員1名と5名の客員教授、そして施設の運営管理の為、伊賀市文化都市協会から3名のスタッフが常駐しているが、四月にスタートして以来、すでに企業との共同研究2件、寄付4件の申し込みがある。サポーター組織も200名ほどの方々が申し込みを済ませ、情報交流を活発に行なう予定である。

年間を通じたセミナーや研究発表会の開催などももうすでにスタートし多数の参加者が満足している。三重大学と文化都市協会が運営する「ゆめテクノ伊賀」は、相互の協力により地元を始め多くの企業の技術開発の一助となり、伊賀に新しい風を起こそうとしている。全国にお住まいの上中、上野高校をご卒業の皆さん、在校生の皆さん、是非「ゆめテクノ伊賀」&三重大学伊賀研究拠点を末長くご支援いただきますようお願い申し上げます。

(記) ゆめテクノ伊賀事務局長 中居喜芳(高17回)

懐かしの先生をたずねて

岡島久司先生



光に煌く木々、池には凜と立つ杜若、その奥に建つ『芭蕉翁記念館』そこが、岡島久司先生の現在の職場です。(財)芭蕉翁顕彰会専務理事として、忙しい日々を送られています。

教員時代の先生は、上野高校春日分校で3年間、上野高校で9年間お勤めになり、平成6年からの4年間は校長として再び当校に在職されました。

一番の思い出は、「その前年度まで顧問をしていた硬式野球部が、三重県大会の決勝まで勝ち上がってくれた事だ」とのことでした。

先生は、倫理社会の授業で、『老荘思想』その中でも、作為の意思を持って行動するのではなく、自然に従った生き方こそ望ましいとした『無為自然』という言葉の意味を私達にご指導下さいました。

今、記念館での仕事に携わらる中で、芭蕉も、この思想を大切にしてきたのだと改めて見直す機会を得たとおっしゃいます。『自然(じねん)』と書かれた芭蕉の遺墨が記念館に保存されていますが、注書は『老子』を受けて書かれた作とされています。

校長時代の先生は、百周年記念事業の準備をされ、事業内容を検討する中で、当時の会長の考えにより、卒業時の入会金に頼

る同窓会ではなく、同窓生が盛り立てていく同窓会にすべきではないかと、会費制を導入し、この『白亜』の発行も企画されたそうです。

また、シェークスピアも学んだキングエドワード六世校との交流も、記念事業の一環として辻成尚先生らと共に、イギリスへ赴き、行われるようになったそうです。

先生は、百周年記念誌『自強』の中で、21世紀は「全人間力」を評価する時代に向かうと書かれています。出身校がどこか、ではなく「何を学び、身につけてきたか、そして何が出来るのか」が問われる時代だとおっしゃっているのです。またその後にも心の充足が大切になってくるとも書かれています。

教師とは、こうした全人間力、心の豊かさを育てていく担い手であるとおっしゃいます。

今、この不景気に直面し、本当にこの意味がよく解ります。昨今、人間として不完全な大人達が、凶悪犯罪を起こす影には、こうした生きる上での充実感を感じられない事に因るものが多いのではないかと思います。

さて、芭蕉翁記念館は、今春から統合により廃校となった桃青中学校の跡地に建設される事が決定しており、芭蕉生誕370年となる平成26年の芭蕉祭迄に完成する見通しだそうです。

取材を終え、岡島先生の凜としたお姿、話し方は、30年を経た今もお変わりなく、先生に憧れていた時代が蘇ったようでした。(取材 米岡広美 高32回)

マスターズ甲子園に挑戦

12月6日、晴天。

北風の吹く中、マスターズ甲子園三重大会が開幕した。

『上野高校OBクラブ』は、甲子園出場メンバーを揃えた強豪伊勢工業と対戦。

4回までを34歳以下のチームで戦い、5回から8回までを35歳以上のチームで戦う。

大差で敗れたしたもの、爽やかな笑顔を見ていると、学生時代に戻ったような錯覚さえ覚えた。

マスターズ甲子園とは、元高校野球児達が、OBチームを結成し、県大会を勝ち上がったチームが甲子園に舞台を移し、プレーするものである。

2004年に創設されて、別名『秋の甲子園』と呼ばれている。三重県は、2007年に立ち上げ、県



下70校ある内の8校が名乗りを挙げた。現在は、16校が参加している。我がチームは、20代後半から50代前半までのメンバーで成り立っている。

体力面の差は歴然としているが、昔のメンバーと、楽しみながら練習に取り組んでいる。しかし、遠隔地の人達に呼びかけて、人数を集めるのは大変であったと、松本欣一代表は語る。

甲子園大会は、年に1回であるが、3月にはトーナメント方式の県大会を行っている。

今後も、全員仕事を持っていて、集まる事は容易ではないが、できる限り練習をして、昔の勘を取り戻して行きたいとの事である。(米岡広美 高32回)

来れ！硬式野球部OB諸君。また、応援団OB、吹奏楽部OBの方々の、参加もお待ちしております。詳しくは、090-8557-11859 松本様迄。

本年度より、進学体制の更なる充実と、人材の育成を目指して理科一クラスがスタートしました。

理科数科では、普通科目の他に発展的で高度な内容を扱う理数専門科目の学習や、大学・研究機関地域との連携を通して、①「学力の伸長」②「独創的な思考力と想像力の向上」③「課題を発見し、解決できる能力の育成」を目指して、特徴ある学習活動が進められています。

四月には、国立曾爾青少年自然の家で理科数科合宿を行い、お互いの交流を深め、団結力を高めました。合宿では、東大阪宇宙開発協同組合前理事長の竹内修さんから、人工衛星「まいと一号」にかける若い技術者の情熱と彼らを支える経営者の貴重なお話を聞き、理科一期生としての心構えを確認しました。

また、医学部や理学部に学ぶ先輩を招いて座談会を開き、先輩からの暖かいメッセージに、きつと自分の将来像を重ねていくことと思います。

五月にはシャープの亀山工場で、先端技術に触れ、それを支える技術者の話を聞きました。いろいろな行事を通して、クラスとしてのまとまりが深まるのが感じられます。

理科数科の取り組みが全体に反映され、上野高校のさらなる発展に寄与することが期待されます。

七月二十九日から八月二日にかけて第三十三回全国高等学校総合文化祭が三重県で開催されます。本校からは写真部、書道部、かるた部、美術部、放送部、新聞部が参加します。また、生徒実行委員会として八名が活躍して、総合開会式やパレードの企画、運営などを行っています。

広報部長を務める岩田君は、三重テレビなどで大会PRに奔走しながら、「総合開会式のリハーサルでは会場の大きさに圧倒されて思うようにいかないうところもあった。」と、緊張しながらも頑張っています。

○クラブ活動【剣道部】 県春季大会女子団体3位、【陸上部】 県陸上競技大会男子走高跳7位、【ハンドボール部】 県総合体育大会男子5位、【将棋部】 県予選男子個人5位、【ギター・マンドリン部】 全国ギター・マンドリンフェスティバル優秀賞、「写真部」県写真コンテスト入選7位、8位、「吹奏楽部」管楽器個人・重奏コンテスト本大会、重奏の部サクソフン五重奏優良賞、「個人」高校生英語弁論大会県予選奨励賞、「放送部」NHK杯放送コンテスト県大会朗読部門・アナウンサー部門優秀賞、全国大会出場、【卓球部】 中日本大会出場、【美術部】 全国大会出品、【書道部】 全国大会出品、【競技カルタ部】 県大会5位入賞、全国大会出場。(留永裕也 高32回)

平成19年度(平成19年9月1日~平成20年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

1. 収入の部		2. 支出の部	
科目	予算額	科目	決算額
1. 前年度繰越金	1,128,894	1. 会議費	0
2. 売上高	0	2. 通信運搬費	0
3. 雑収入	1803	3. 払込料金	0
合計	1,130,697	4. 製本・印刷費	0
		5. 積立金	0
		6. 予備費	0
		小計	0
		次期繰越金	1,130,697
		合計	1,130,697

平成20年度(平成20年9月1日~平成21年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

1. 収入の部		2. 支出の部	
科目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	対比 A-B
1. 前年度繰越金	1,130,697	1,128,894	1.803
2. 売上高	0	0	0
3. 雑収入	1,800	506	1.294
合計	1,132,497	1,129,400	3.097

科目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	対比 A-B
1. 会議費	0	0	0
2. 通信運搬費	0	0	0
3. 払込料金	0	0	0
4. 製本・印刷費	0	0	0
5. 積立金	1,100,000	1,100,000	0
6. 予備費	32,497	29,400	3.097
次期繰越金	0	0	0
合計	1,132,497	1,129,400	3.097

平成19年度(平成19年9月1日~平成20年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

1. 収入の部		2. 支出の部	
科目	予算額	決算額	対予算比
1. 前年度繰越金	1,467,191	1,467,191	0
2. 入会金	3,690,000	3,658,320	△ 31,680
3. 年会費	4,000,000	4,104,000	△ 104,000
本年度会費	3,000,000	2,588,000	△ 412,000
前年度会費	1,000,000	1,516,000	△ 516,000
雑収入	92,809	55,128	△ 37,681
合計	9,250,000	9,284,639	34.639

科目	予算額	決算額	対予算比
1. 会議費	700,000	569,368	△ 130,632
総会費	600,000	488,048	△ 111,952
諸会議費	100,000	81,320	△ 18,680
2. 運営費	1,670,000	1,532,309	△ 137,691
事務局人件費	600,000	595,500	△ 4,500
事務消耗品費	10,000	420	△ 9,580
電気・通信費	400,000	360,269	△ 39,731
旅費	200,000	204,000	△ 4,000
渉外・慶弔費	200,000	135,000	△ 65,000
一般印刷費	50,000	12,600	△ 37,400
払込手数料	200,000	224,520	△ 24,520
雑費	10,000	0	△ 10,000
3. 事業費	4,500,000	4,128,529	△ 371,471
a) 会報発行費	4,100,000	3,887,635	△ 212,365
会報編集費	100,000	42,350	△ 57,650
会報印刷費	2,000,000	1,941,677	△ 58,323
会報封入費等	200,000	232,756	△ 32,756
会報郵送料	1,800,000	1,670,852	△ 129,148
b) 講演会等開催費	400,000	240,894	△ 159,106
講演会費	100,000	0	△ 100,000
地域文化振興活動等後援費	200,000	100,000	△ 100,000
上野同窓会顕彰活動費	100,000	140,894	△ 40,894
4. 助成費	1,750,000	1,550,000	△ 200,000
支部助成費	1,250,000	1,250,000	0
学年同窓会援助費	500,000	300,000	△ 200,000
備品等整備費	50,000	40,147	△ 9,853
備品費	30,000	24,297	△ 5,703
図書費	20,000	15,850	△ 4,150
6. 学校費	480,000	279,250	△ 200,750
事務補助費	10,000	0	△ 10,000
事業補助費	170,000	238,300	68,300
庭園整備補助費	300,000	40,950	△ 259,050
7. 積立金	0	0	0
積立金	0	0	0
B. 予備費	100,000	0	△ 100,000
予備費	100,000	0	△ 100,000
小計	9,250,000	8,099,603	△ 1,150,397
次期繰越金	0	1,185,036	1,185,036
合計	9,250,000	9,284,639	34.639

平成20年度(平成20年9月1日~平成21年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

1. 収入の部		2. 支出の部			
科目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	前年度決算額 C	対 A-B	比 A-C
1. 前年度繰越金	1,185,036	1,467,191	1,467,191	△ 282,155	△ 282,155
2. 入会金	3,340,000	3,690,000	3,658,320	△ 350,000	△ 318,320
3. 年会費	4,000,000	4,000,000	4,104,000	0	△ 104,000
本年度会費	3,000,000	3,000,000	2,588,000	0	△ 412,000
前年度会費	1,000,000	1,000,000	1,516,000	0	△ 516,000
雑収入	54,964	92,809	55,128	△ 37,845	△ 16,639
合計	8,580,000	9,250,000	9,284,639	△ 670,000	△ 704,639

科目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	前年度決算額 C	対 A-B	比 A-C
1. 会議費	650,000	700,000	569,368	△ 50,000	80,632
総会費	550,000	600,000	488,048	△ 50,000	61,952
諸会議費	100,000	100,000	81,320	0	18,680
2. 運営費	1,600,000	1,670,000	1,532,309	△ 70,000	67,691
事務局人件費	600,000	600,000	595,500	0	4,500
事務消耗品費	10,000	10,000	420	0	9,580
電気・通信費	400,000	400,000	360,269	0	39,731
旅費	200,000	200,000	204,000	0	4,000
渉外・慶弔費	200,000	200,000	135,000	△ 50,000	15,000
一般印刷費	50,000	50,000	12,600	△ 20,000	17,400
払込手数料	200,000	200,000	224,520	0	△ 24,520
雑費	10,000	10,000	0	0	10,000
3. 事業費	4,250,000	4,500,000	4,128,529	△ 250,000	121,471
a) 会報発行費	4,000,000	4,100,000	3,887,635	△ 100,000	112,365
会報編集費	50,000	100,000	42,350	△ 50,000	7,650
会報印刷費	2,000,000	2,000,000	1,941,677	0	58,323
会報封入費等	250,000	200,000	232,756	50,000	17,244
会報郵送料	1,700,000	1,800,000	1,670,852	△ 100,000	29,148
b) 講演会等開催費	250,000	400,000	240,894	△ 150,000	9,106
講演会費	50,000	100,000	0	△ 50,000	50,000
地域文化振興活動等後援費	100,000	200,000	100,000	0	100,000
上野同窓会顕彰活動費	100,000	100,000	140,894	0	△ 40,894
4. 助成費	1,670,000	1,750,000	1,550,000	△ 80,000	120,000
支部助成費	1,250,000	1,250,000	1,250,000	0	0
学年同窓会援助費	420,000	500,000	300,000	△ 80,000	120,000
5. 備品等整備費	50,000	50,000	40,147	0	9,853
備品費	30,000	30,000	24,297	0	5,703
図書費	20,000	20,000	15,850	0	4,150
6. 学校費	300,000	480,000	279,250	△ 180,000	20,750
事務補助費	10,000	10,000	0	0	10,000
事業補助費	240,000	170,000	238,300	70,000	1,700
庭園整備補助費	50,000	300,000	40,950	△ 250,000	9,050
7. 積立金	0	0	0	0	0
積立金	0	0	0	0	0
8. 予備費	60,000	100,000	0	△ 40,000	60,000
予備費	60,000	100,000	0	△ 40,000	60,000
次期繰越金	0	0	1,185,036	△ 1,185,036	△ 1,185,036
合計	8,580,000	9,250,000	9,284,639	△ 670,000	△ 704,639

会費納入のお願い

上野高等学校同窓会は、毎年春の卒業生による新入会員入会金と全会員にお願いしております。年費の合計で運営されています。

非常に活発な同窓会活動を行っており、この1年間の主な事業を挙げますと次の通りです。

- ・同窓会報「白亜」の発行
- ・ホームページの運営
- ・一般公開講座(明治校舎で学ぶ「ふるさと伊賀 再発見」パート10)
- ・「雪解の集い」の後援
- ・百周年記念施設の維持管理
- ・東京、名古屋、京阪神支部への支援
- ・上中会、くれは会、扇の芝会への支援
- ・各学年同窓会への支援
- ・上野高校への支援
- ・その他、総会の拡充や同窓会名簿の管理等

上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実等、更なる発展を願うものであります。

今年度も年会費(一口2,000円)の納入につきまして、会員皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

総会報告

20年度の上野高等学校同窓会総会が、昨年10月5日、上野フレックスホテルで開催されました。19年度の事業報告と決算報告、20年度の事業計画と予算案が承認されました。

記念講演は、「虹の彼方へ 文化の越境を担った人々」の演題で戸上宗賢さん(高4回)にお話いただきました。移民学会でご活躍になった中で出会われた方々のお話でした。国境や大陸を越えて伝えられた文化、私たちの引き継いだ文化に流れるもの。それを伝える文化人や学者の活躍。織り交ぜられる興味深いエピソードに1時間は瞬く間に過ぎてしまいました。

戸上宗賢さん 講演する戸上宗賢さん

平成21年度(2009年) 総会のご案内

とき 平成21年10月18日(日)

■ 14:00~ 記念講演 ■ 15:00~ 総会 ■ 16:00~ 懇親会(会費3,000円)

ところ 上野フレックスホテル
伊賀市平野中川原544-2 ☎0595-21-3111

記念講演

講師 ライフネット生命社長 出口 治明さん(高18回)

演題 「還暦のベンチャー 74年ぶりの独立系生保の誕生」

1. 起業の経緯 ~ 7. 業績と今後の課題

プロフィール
京都大学法学部卒業後、日本生命保険相互会社に入社。経営企画を担当。生命保険協会初代財務企画専門委員長として、金融制度改革保険業法の改正に東奔西走する。ロンドン現地法人社長、国際業務部長などを経て退社。東京大学総長室アドバイザーを務め、2006年にネットライフ企画株式会社設立。生命保険業免許取得に伴い、社名をライフネット生命保険株式会社とし、代表取締役社長に就任。

懇親会アトラクション

福岡友也さん(高38回)によるコンサート(サクソフォン・ピアノ)

歌集「丘陵地」

高橋則子さん(高19回)

歌集「水の上まで」(91年)で角川短歌賞を受け、その後も新境地を拓いてきた高橋則子さんが第4歌集「丘陵地」を発表されました。歌集名は自宅付近からの眺望によります。

生駒嶺より出でて六甲山に入るひかり朝な夕なこのまら照らす
潮風を丘陵地ここに台風は運び錯落とす青葉の枝を
また、亡父への思いを伊賀への望郷と重ねている歌も多く詠んでいます。

北に逝く木津川の水いくたびと作りし父の句を思ひをり
そして、次の歌は、上野高校校歌の本歌取りになっています。

四方囲む伊賀の山やま越えゆけとわれには言はざりき父を思ひつ
望郷と忌避感の交錯は、郷里を離れている人の心かも知れません。

伊賀根性どみづからを言ふ伊賀人の本心をわねはも持てり
叙景が多い中で次のような内面を見つめた歌と世界の現実と視線を向けた歌が対照的です。

この闇を一つすきゆく鴉の声短くやめばもの思はする
はてもなく人は人を殺す解け切れぬ世界をあはれ切り切らむとして

(短歌新聞社刊)

寄贈図書から 俳句と短歌

「俳句の俳句 芥川龍之介に捧げる箴言集」 北村純一さん(高18回)

句文集「団塊世代へのシニプレヒコール」(04年)で話題になった北村純一さんがまた意表を突く本を出されました。自身の長年の表現手段である俳句とアフォリズム(箴言)を組み合わせた「発明」です。表現行為として自己完結する俳句の閉塞感を突破しようとする意図のようです。二百十のテーマから少し紹介を。

逆境 芸術家のホームグラウンド。かつて松尾芭蕉も、これを求めて旅に出た。渡り鳥も同じ理由で旅に出るといいます。また、一流の芸術家に付き物の「悪妻」なるものも、想像の肥やしになった可能性は十分考えられる。

鳥渡る逆境の詩得んがため日本人 かつては礼儀正しく、慎しかつた国民であるが、飽食と自ら招いた温暖化のため、今や溶解しつづる。

糾う 死者と生者が絡まること。現代は照明が明るすぎるため、ほとんど見えないが、昔は月夜にふつうに見られた情景。

死者生者糾うごとく月に舞う美しい 悲しいこと。美は極限で、悲しみを帯びる。はかない生を、無意識に感じるためだろうか。かなかなの鳴き声の、モールのような美しさ。

かなかなは美の最果てを悲しめり美しいとは悲しいことかも校員 (朝日新聞出版刊)